

「探検」のその先へ

いつの時代も、未来を切り開くのは、
誰も想像していなかった新たな挑戦と、
自分だけの方法で、自分だけの目的地へと迫る勇気です。

探検家・関野吉晴は、
アフリカで生まれた人類が世界中に拡散するまでの道筋を追って、
現代文明に頼らない原始的な方法で「探検」をしてきました。

映画「縄文号とパクール号の航海」は、その「探検」の記録です。
仲間たちとともに、圧倒的な自然の力に挑戦する姿は、
子どもたちにとって、勇気と冒険心を与えてくれる道しるべとなることでしょう。

2月25日 縄文号と パクール号 あまみへの航海

「奄美市まなび・福祉フェスタ」関連企画

平成29年度 文化芸術アソシエイツ創造発信プログラム / 「おおむら・あまみ国際学生映画祭」関連企画

この船はどこに
向かっているか？



プログラム①：特別上映

「縄文号とパクール号の航海」

製作・出演：関野吉晴 監督：水本博之 / 2014年 / ドキュメンタリー映画 / 122分

2018年2月25日(日) 15:30-17:32 (開場 15:00)

奄美文化センター内ホール (鹿児島県奄美市名瀬長浜町 517)

「グレートジャーニー」で知られる探検家・関野吉晴が、太古の人類が日本に至るまでに航海した海路を辿る。砂鉄を集めて工具を作り、それで切り倒した巨木と、草で編んだ帆で舟を作る。価値観も宗教も年齢も異なるクルーたちは、鳥影と星だけを頼りに、風力と手漕ぎで海を渡る。探検家の「キャリアの中で最も困難な計画」は、圧倒的な自然の力に翻弄されながら、生きることを問うていく。

グリーンイメージ国際環境映画祭グリーンイメージ賞受賞。

上映前にトークイベントも開催します。詳しくは裏面をチェック！



今回は若者とインドネシア人漁師と手作りカヌーで大海原に挑戦。星を頼りに航海する、グレートジャーニー関野吉晴さんたちの姿に手に汗握り、最後は拍手を送り、脱帽した。

北野武(映画監督・タレント)

(写真) 佐藤洋平

あまみとおおむら 考古学がつなぐ未来?

厳しい航海が必要だった時代とは違い、現代の技術は出会いを簡単にしたかもしれません。しかし同時に、本当は近いはずなのに、心理的な距離が開いてしまった場所もたくさん生まれました。たとえば、あまみと長崎県のおおむらとの距離はどうでしょうか。時を11世紀前後にまで遡ってみます。その頃にあまみ地域で生産されていた土器が、近年長崎県のおおむらで出土しました。長崎県大村湾周辺で生産されていた石鍋の痕跡もあまみに残っています。かつてはあまみとおおむらのあいだに、独自の交易ルートがあったのかもしれませんが。現代的な技術のない時代にはそこに多くの出会いとまなびがあったはずなのです。本映画はあまみだけでなく、おおむらでも同日上映されます。この映画はひとつの船となり、航海を終えることなく、あまみを超え、おおむらを超え、未来へと進んでいくのです。



11世紀から14世紀にあまみ・徳之島で生産され、流通していた「カムイ焼」。奄美博物館所蔵。合わせてご覧ください。

プログラム②：トークイベント

「あまみへの / からの航海」

2018年2月25日(日)
14:00-15:00 (開場 13:30)

奄美市立奄美博物館 3階企画展示室
(鹿児島県奄美市名瀬長浜町 517)

近年新たな展開を見せているあまみの考古学から、人類のルーツを探る壮大な旅を捉え直します。

登壇者 



関野吉晴 (せきの・よしはる)

1949年生まれ。東京都出身。
1993年から、アフリカに誕生した人類がユーラシア大陸を歩いてアメリカ大陸にまで拡散していった行程を、自らの脚力と腕力だけをたよりに進行する旅「グレートジャーニー」を始める。



高梨修 (たかなし・おさむ)

1960年生まれ。奄美市立奄美博物館学芸員。
1984年から南西諸島をフィールドとして考古学を学ぶ。
2004年、第25回沖縄文化協会賞比嘉春潮賞受賞。

お問い合わせ

武蔵野美術大学 法人企画グループ 社会連携チーム
担当：板橋・上久保
phone: 042-342-7945 fax: 042-342-6087
e-mail: mau-kouza@musabi.ac.jp

おおむら・あまみ国際学生映画祭 実行委員会

<http://OASIFF.jp/>  